

第28回学校評議員会 会議録

平成24年7月11日（水） 15:00～16:30

弘前高校会議室

出席者 学校評議員 3名

学 校 側 校長、教頭（司会）、事務長、教務主任
進路指導主任、生徒指導主任、教務部員（記録）

1 校長挨拶

校長 : お忙しいところ、ご来校頂いてありがとうございます。今年度から本校校長を務めております古山です。私は平成17年度まで10年間本校に勤務していました。この春、縁あって6年ぶりに本校に戻ってきました。6年ぶりの弘前高校は生徒や学校の様子が若干変化した感じがしましたが、最近少し慣れてきたように思います。今日はどうぞよろしくお願いいたします。

いま学校は抱えている課題がたくさんあります。職員一同、毎日生徒のためにはと思い、努力しています。しかし学校の中に入ると気がつかないことも多くあります。評議員の皆さまにご指摘を頂いたことを活かして地域に受け入れられる学校にしていきたいと考えています。

「学校経営方針」はずっと以前から掲げてきた目標を踏襲しています。まず「進路指導の充実」については、大学合格者数などの数値を追いかけるのではなく、生徒ひとりひとりの進路達成を叶えていくことを重視していきたいと考えています。また「生徒指導の充実」「地域との連携、感性教育」を大切にしていきたいと考えています。タンポポの花を例にして考えると、美という視点で捉えることもできるし、生物学的な視点で捉えることも可能です。いろいろな視点で物事を捉えることのできる感性教育を重視しています。また人と人とのつながりで人間社会は成り立っています。地域との連携、中学校との連携、様々な連携を考えて学校を運営していこうと考えています。

教頭 : 教頭の奈良と申します。私も平成22年まで本校に勤務していました。このたび2年ぶりに戻って参りました。今日はどうぞよろしくお願いいたします。生徒は今週、午前4時間授業をしたあと、総合的な学習の時間としてねぶたを制作しております。生徒の活動の様子を見たあと、ご意見を伺いたいと考えております。

一同 : (ねぶた制作見学へ)

2 意見交換

教務部 : 教務部目標の「教育課程の研究を進め、改善点を検討する」は、今年度の新入生から数学・理科において新学習指導要領が先行実施されたことに関係しています。しばらくの間、新から旧への移行期間にあたります。弘前高校が目指す方向に合致した教育課程の編成のため、問題点を探り改善していきたいと考えています。また同じく教務部目標の「スムーズな選抜業務の運営に努める」は、二重三重にチェックをしてミスのない高校入試選抜業務を行っていくということです。

今年度から授業時間が55分から50分に変更になり、さらに週3日7時間授業を実施しています。更に従来は3年生から文理分けをしていましたが、今年度から選択科目の関係で2年生から文理分けをすることになりました。変更を加えるといろいろと問題点も出てくることが予想されますが、ひとつひとつ解決していきたいと考えています。

進路指導部 : まず今年度3年生の進路志望状況についてご説明いたします。特徴としては、例年通

り国公立志望者が多く、また理系志望者が多い特徴があります。例年東北大志望者が80名ほどいますが、今年度は60名に止まっています。その分は北海道大、筑波大、東京大の志望者数が増加しています。私立大学志望者は指定校推薦のある大学に希望者が集まっています。相変わらず医歯薬学部志望者は多いのですが、新傾向として教育学部志望者が30名となり人気が復活傾向にあるようです。本校独自に実施している医療現場体験などの取り組みが、生徒の強い志望を支えているように思います。学部領域別志望には「その他」も若干名いますが、卒業後すぐ留学を考えている生徒などで、進路未定で悩んでいるというわけではありません。また先ほど教務部からの説明にもありましたように、週3日7時間授業になりましたが、3年生の平常講習は高校総体明けから従来通り90分実施しています。火水木曜日は4:30~6:00まで、月金は3:30~5:00まで実施しています。長期休業中の講習は従来通りの規模で今年度も実施する予定です。

生徒指導部： 今年度の部活動加入者数を分析すると、例年に比較して1年生女子が運動部に多く加入してしていることがわかります。ちなみに2年生は女子の文化部加入者が多く、3年生は男子の文化部加入者が多い特徴があります。今年度の高校総体の結果は、ベスト8に入賞した部も多く、進学校にしてはがんばっているのではないかと思います。また全国大会に出場する部活については、テニス部、弓道部、陸上競技部、ゴルフ部が全国総体に出場し、吹奏楽部、放送部、JRC部、写真部、囲碁部が全国高総文祭に出場することに決まりました。また軟式野球部は先日、県大会で優勝し、北東北大会への出場を決めています。全体的には文化部ががんばっている印象があります。

教頭： 一通り各分掌からの説明が終わりましたので、これから質疑応答に入ります。

評議員B氏： 現在の男子女子の比率はどうなっていますか。

教務部： 1年生と2年生は女子が若干多いです。全体的にここ6年くらいは男女半々で推移しています。

評議員A氏： 学力の男女差はありますか。

教務部： 一般的には理類型は男子が、文類型は女子が成績のよい傾向にあると思われます。

進路指導部： 女子は最終段階で受験に対する怖さがでて、安全圏を選ぶ傾向があります。最後に伸びるのは男子であるように思われます。

教頭： 東大の合格者は過去、男子5女子1の割合となっています。

評議員A氏： 弘前大学医学部は女子の割合が40%となっています。男女で比較すると、コツコツと地道に努力する女子の方が成績面では有利な気がします。岩手県立大学学長、首都大学東京学長をした西澤潤一氏は文部科学省に委託され、事業費の予算査定をするときには、聞いたこともないことをやろうとしている人に予算を付けたそうです。聞いたことのある事業は、すでに誰かが手を付けている分野なので支援する必要性は薄いという判断です。独創的な人材を育てることをおろそかにしてはいけません。弘前大学医学部に入学してくる学生を見ても、年々人間としてのスケールが小粒になってきている気がします。ひょっとしたら、世の中全体の傾向なのかもしれません。

「持って生まれたものを深くさぐって強く引き出す人」を目指す人間像として掲げていると説明がありましたが、弘前高校から来た学生に聞いても知らない学生がいました。在校生にきちんと、周知徹底されていないのではないのでしょうか？

校長： 教職員には周知されていると思いますが、生徒には必ずしも周知されていると言い切

れない面があるのかもしれませんが。根幹に係わる大事なことです。今後とも周知に努めていきたいと思っています。

評議員 B 氏： 私は大学病院に勤めていますが、時々高校生が外科手術を見学に来ることがあります。日程などの条件が合えば、開かれた大学病院という観点からも望ましいことなので、どんどん見学等には訪れてもらいたいと思っています。

評議員 A 氏： 医師の確保は青森県の重要施策です。多くの弘前高校の優秀な生徒に、是非医学部を受験してもらいたいと思います。話は変わりますが、かつては授業時間は 65 分でした。だんだん授業時間が短くなっているということは、生徒が飽きっぽくなってきていて、集中力が続かなくなっているからなのですか。

教務部： 受験の科目縛りが多いのが理由です。特に理科の縛りがきつく、多くの大学受験に対応するために履修にいろいろと工夫することが必要となってきています。つまりコマ数を増やさないと受験に対応できないという現実があります。決して生徒が飽きっぽくなってきているという理由からではありません。今年の 1 年生は全員、基礎科目として物理、化学、生物の 3 科目を履修しています。

評議員 A 氏： 1 年生から物理を学ぶということはすばらしい。医学部に入学してくる学生でも、生物を選択して物理を高校時代に全く学ばないで入学してくる学生がいます。物理的な考え方のない学生がいると指導に困ることがあります。また話は変わりますが、義務教育では平均するとクラスに 1 名は不登校の生徒がいるそうですが、精神的な問題で学校に来られなくなる生徒はいるのですか。

教頭： 精神的に弱い生徒は増えています。例えば好きなことはしますが、好きではないことはしようとしなないなど、忍耐力に欠ける生徒は増えています。先生方もそのような生徒への対応に苦労しています。

評議員 B 氏： 一般的に不登校になると直らない生徒が多いと言われています。弘前高校では、早めの指導はしているのですか。

教頭： 問題が起こると学校カウンセラーの先生に相談してアドバイスを受けています。先日も保健相談部主催で、すべての先生方を対象に特別支援と発達障害についての研修会を催しました。これからも機会を見つけて生徒の心の問題について研修に努め、不登校生徒への対応力を養っていきます。

評議員 A 氏： 先生の鬱も増えていると聞きますが、弘前高校はどうなのですか。

校長： いまのところはいません。しかし今後も教職員の心の健康に気をつけていきます。

評議員 C 氏： 鬱はどの年代でも増えています。先生の対応によって紙一重で救われる生徒もいると思います。もしもそのような生徒がいた場合は、早め早めの対応を心がけて欲しいと思います。

教頭： 学校を去っていく生徒が出ないように先生方も努力しています。今後とも一人一人の生徒の様子に気を配り注意していきます。

評議員 A 氏： 以前の弘前高校ではあまりなかった、看護や放射線を志望する生徒が増えているのはなぜでしょうか。また教員志望が増えているのはどうしてですか。

進路指導部： 全体的に医療系を志望する生徒が多くなってきています。保護者の意見を素直に聞く生徒が多いので、保護者が安定した地元の就職先として医療関係の仕事を勧めることが多いからでないかと思われます。教員志望については自分で考えて決めている生徒が多いようです。特別な指導等は行っていません。

評議員 A 氏： ときどき医者としての覚悟がないまま、医学部に入学してくる学生がいて困っています。深夜でもゴールデンウィークでも仕事があるという職業実態を、よく知ってから医学部を受験して欲しいと思います。医療従事者を希望する生徒には、仕事の実態を知り、覚悟のある生徒が受験するようにして欲しいと思います。

教務部： 毎年 1 年生対象に職業人講話を実施しています。いろいろな関係を頼って、様々な職業の方に学校に来て頂き、職業実態について話してもらっています。10 月に実施予定なので、もし都合が許せば皆様にも是非とも講師として生徒にいろいろな職業のことに教えて頂けると助かります。

評議員 D 氏： 私は転勤族なので、子供が高校生の時はねぶたについてよくわかりませんでした。3 年生の勉強しなければならぬ大事な時期に、何日もねぶたを作るという、学校の伝統行事に非常なストレスを感じていました。しかし今振り返って、子供と弘高のねぶたの話をする、非常によい思い出になっていることがわかりました。在籍していた当時は気が付かなかった、人間として成長するひとつの大事な過程だということが、今はわかりました。かけがえのない高校時代の思い出を作ってもらって感謝しています。

評議員 C 氏： 親の都合だけではなく、学校の都合だけでもなく、生徒の都合だけでもなく、皆が幸せになるという教育は難しい。確かに塾や予備校の勉強は、弘前高校の授業と比較して効率的な面があるのは否定できないと思います。しかし弘高でねぶたを作り、運行したことは一生の思い出になります。そのような経験を通して人間的に成長していくことは、とても大事なことだと思います。

評議員 B 氏： 都会では学校で講習などしてくれないので、塾に通わせるため昼と夜の弁当を 2 個持たせて勉強させています。弘前高校のように夏休みも講習をして勉強させてくれるのは、保護者としてありがたいと思いました。今後も生徒の進路実現のために努力して頂けるとよいと思います。

評議員 A 氏： 弘前高校出身の学生でも、一人で自発的に物を調べるのでできない学生が増えている気がします。高校時代に先生方が手取り足取りの指導することが多すぎるからではないでしょうか。受験があるのでしようがない面もありますが、自主的に問題に取り組める生徒を育てる教育ができないかについて、もっと考えるべきだと思います。

校長： 忙しい中、長時間にわたり貴重なご意見を伺いありがとうございました。生徒に思いを伝えていくのは難しいものです。効率性を望む生徒もいれば、違う考え方をする生徒もいます。多様な要望に悩みながら、多くの生徒のためになる学校経営をこれからも心がけて行きたいと思っています。

教頭： 次回評議員会は 2 月 8 日（金）か 2 月 1 日（金）を予定しています。しかし校長の出張等、日程がはっきりしません。12 月頃までに日時を確定したいと考えています。弘前高校のことで気づいたことがあればいつでも学校にお知らせください。本日はご来校頂きありがとうございました。

終了 16：40